ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

シートNO.

ボーリング名	B-3	調査位置						北　緯	37 ° 06 ’ 47.9500 ”
発注機関	栃木県　大田原土木事務所			調査期間	2010-11-13 ～ 2010-11-16			東　経	140 ° 01 ’ 10.6000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	773.23 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 0° 90° 28.00 °	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘進長	10.00 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) / 測定月日
1	770.48	2.75	2.75		崖錐堆積物 (Tl)	暗茶 / 暗褐灰	非常に密な		表部30cm間は礫混り火山灰質砂である。以深は砂礫状を呈し、緩い地盤状況にある。礫はφ10～30mmの亜角礫を主体に最大φ60mm程を点在し、コア長5～10cm(推定φ150～300mm)の粗石分及びコア長20～25cm(推定φ600～750mm)の転石を多量に混入する。マトリックスは砂分と少量の細粒土分で構成される。		
3	768.18	2.30	5.05		転石・玉石混り砂礫 (GS-B)	暗茶灰			河成堆積物である。φ5～30mmの亜角礫を主体に最大φ50mm前後を点在し、局所ではコア長10～20cm(推定φ300～600mm程)の転石を混入し、最大ではコア長30cm(推定φ900mm前後)をも認める。礫間は中～粗砂分と細粒土分で構成され、充填度合いはやや緩い。		11/14 3.85
5	764.98	3.20	8.25		礫混り粘土 (CH-G)	暗褐灰		非常に硬い	土性は含水・粘性共にやや低く、硬質である。 φ5～20mmの火山礫を主体にコア長3cm前後(推定φ80～100mm)の粗石分を点在する。 GL-6～6.5m間、軽石質を帯びる。 局所的に砂分の多含有部を認める。		
9	762.88	2.10	10.35		転石・玉石混り火山灰 (VA-B)	暗褐			火山灰質の粘性土を主体に粗粒砂分を混じえ、土は非常に固い。全体に粘土化したスコリアを含有している。 φ10～30mmの火山礫を主体にGL-9.7m以深にはコア長30cm(推定φ900mm内外)の転石を認める。		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0–10	10–20	20–30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.35	7	43/3		50/13	>50
1.48					
2.30	6	6	6	18/30	18
2.60					
3.20	8	5/5	37/3	50/18	>50
3.38					
4.15	9	8	33/8	50/28	>50
4.43					
5.15	6	6	6	18/30	18
5.45					
6.15	10	8	12	30/30	30
6.45					
7.15	5	5	6	16/30	16
7.45					
8.15	4	11	13	28/30	28
8.45					
9.15	16	34		50/20	>50
9.35					
10.15	14	36		50/20	>50
10.35					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						11/13
						11/14
						11/15
						11/16